

自治会も変わらないと！

地域の価値を高める自治会活動

自治会活動・元気アップ研修会



講師 酒本宏さん
株式会社Glocal Design 代表取締役

01 自治会の現状と必要性・価値

誰もが安心・安全なコミュニティを望み、楽しい暮らしを求めている。その地域コミュニティを支えているのが自治会であり、自治会活動が活性化することで、その地域の価値を高めることにもつながる。

02 自治会が直面する課題への対応

ほとんどの自治会が「担い手不足」に悩んでいるが、その要因として、社会的要因（高齢化、価値観等の多様化）と運営上の要因（役員の負担が大きい、住民ニーズに合致していない、広報不足など）が挙げられる。後者は自治会の取り組み方を変えることで対応できるものである。

役員の負担を低減

SNSを活用した迅速かつ簡便な情報共有を図る、役員の任期をルール化したり定年制を導入するなど、交代を促す、などが考えられる。

住民ニーズを把握

アンケートなどで得られた結果をもとに、既存事業の棚卸しと新規事業の導入をし、住民が必要とする事業に集中するようにする。

情報発信

今の時代に即した多様な媒体（LINE公式アカウントやFacebook等の活用）で今まで届かなかった層にも情報を伝える工夫をする。

03 これからの自治会運営のヒント

1940年代からスタートした自治会は、社会環境が大きく変わった中で、変革を余儀なくされている。これからさらに人口減少、高齢化が進み、地域コミュニティの重要性はますます大きくなっていく。その支え手として自治会は大きな役割を果たすべきだが、すべてを自治会単独で担うことはできない。地域を構成する多様な主体をつなぎ、コミュニティの価値を高めることが、これからの自治会に期待されている。そのためにも、従来の自治会が陥りやすい「高齢者による高齢者のための自治会」から脱却し、子育て世代を巻き込んだ開かれた自治会運営を心掛ける必要がある。

「推せる！自治会」とは？

地域デザインセンターと宇都宮まちづくり市民工房は、大学生や若者が「深く知りたくなる、他人に薦めたくなる、応援したくなる」、そんな“推せる”自治会について、今後も探究していきたいと思います！！

発行 2023年3月

特定非営利活動法人 宇都宮まちづくり市民工房 宇都宮大学 地域デザイン科学部附属 地域デザインセンター

宇都宮まちづくり市民工房
のホームページ ▶



地域デザインセンター
のホームページ ▶



本誌は社会福祉法人栃木県共同募金会「地域に密着した多様な生活支援活動を応援する助成」実施事業の支援を受けて制作したものです。

© Wantsuca Works

お
推せる！

自治会

#セルフガバメント



自治会活動・元気アップ研修会に宇大生が参加してみた！

自治会は、役員のなり手の不足や活動参加者の固定化、高齢者の退会など、様々な課題に直面しています。加えて、コロナ禍により活動の制限や自粛を余儀なくされ、その存在価値を問う声も聞かれています。一方で、住民同士のつながりが希薄化している地域社会において、共助の担い手として自治会が期待されています。

こうした状況のなか、これまでの活動を見直して「これからの時代にふさわしい自治会の役割は何か」を考える機会として、宇都宮市自治会連合会と宇都宮市が「自治会活動・元気アップ研修会」を実施し、市内自治会の役員が講演会と意見交換に参加しました。

今年度は宇都宮大学の学生がワークショップのファシリテーターを担い、その成果についてまとめました。

研修会でふりかえる コロナ禍での自治会活動

- ▶ 伝統行事、イベントによる活性化
 - 体育祭 ▪ 球技大会 ▪ 敬老会
 - 夏祭り ▪ どんど焼き ▪ 寺社関連
 - 絵手紙 ▪ 切り絵展 など
- ▶ 情報伝達・収集
 - 回覧板やLINEによる情報伝達
 - グループLINEの構築
- ▶ 防犯機能の向上
 - 防犯灯の設置、繁華街特有の課題を解決するため監視カメラを設置 など
- ▶ 福祉活動
 - お年寄りが心配なので、民生委員の協力で電話聞き取り
 - LINEを利用して、独居世帯の安否確認 など

- ▶ 土地の維持管理、コミュニティ形成
 - 住民が集まって草刈り
 - 空き地にお金をかけず花壇づくり
 - 子供たちと一緒に“子供花壇”を作成
- ▶ デジタル化の推進
 - 大学生とのスマホ教室を一緒に実施

Point!

- イベントなどは規模を縮小または時間を短縮して開催など、いろいろ簡略化・簡素化!
- 飲食は無し、または飲み物持参!



活動の課題

- ▶ 合意形成のむずかしさ
 - みんなの意見を聞く時間がとれない。
 - 一人が消極的な意見出すと引っ張られる。
 - コミュニケーションとれてないから反対意見に反論できない。
 - お互いの顔を知らないのは組織としてよくない。
 - アイディアあっても実行がむずかしい。

- ▶ デジタル化への対応
 - 高齢者がほとんどの地域では受け取り側がLINEを使っていないので、LINEを使った情報共有が通じない。
 - LINEや様々な形での情報発信が必要。
 - 回覧板はほとんど見ていないという意見も。
 - LINEを活用することは重要であるが、なかなか手が回らない。

- ▶ 担い手不足
 - 担い手不足に困っている、若い世代の担い手が少ない。
 - 若い世代の顔がわからない。
 - 人集めが大変。
 - 役員が仕事を掛け持ちしている。

- ▶ 今後の自治会運営への不安感
 - 今までの歴史をある程度踏襲はするが、現代の価値観に合った自治会運営が必要。
 - 「老人のための自治会の脱却」という課題の意味を深めたい。
 - 自治会の必要性がないと思われるのが怖い。
 - 若い世代を取り入れる土壌ができていない。
 - 新しい人(若い人たち)にメリットがない。

研修会を通じて 大学生が感じた自治会



SNSやLINEを通しての情報提供や若い世代との交流が重要になってくる一方で、自治会の方々にとっては、やりたいと考えていても取り入れることができないことがあるという事を知ることができました。

SNSやデジタル
デバイスの利用

若い世代にもっと自治会について知ってもらう必要があると感じました。



自治会が、スマホ・SNSの使い方を学ぶ機会のつくことや、今加入している若い世代を巻き込んだオンラインのイベントなどがあると、若い世代が求めているものを知ることができ、かつ若い世代にも自治会について知ってもらう機会になると感じました。

自治会の在り方について

今回の議論に参加してみて、自治会長のなかにも、何のために自治会が存在しているのかがしっかりと整理されていないまま活動をなさっている方が多いように感じました。



もっと組織の意義を話し合ったり確認しあったりする場面が必要だと思いました。

自治会を取り巻く現状に対して、行政側はどのように捉えているのかについて知りたかったです。自治会の加入率が低下していることや、地域の高齢化といった事実を踏まえると、役員の力のみに自治会の変革を求めるのでは事態は一向に改善しないと思います。



大学生30人に聞いてみた!

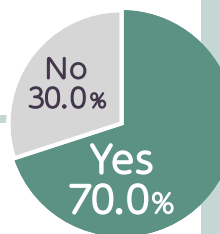
Q1 自治会と関わりを持ちたいと思いますか?

Yes

- 将来のため(職業柄)
- 地域防災に興味があるため
- 地域とのつながりが欲しい
- 町内会費を支払っているため
- 自治会・さまざまな人と関わってみたい
- 自治会での活動を知らないから
- 地域の情報や雰囲気が知りたい

No

- 興味がない
- 人間関係が濃密であるイメージがあり、面倒だから
- 自治会の構成員になることで生じるであろう役割や責任が重荷に感じられるから



Q2 あなたが関われる／関わりたいと思う自治会活動は?

- 1位 運動会やお祭りなどのイベント補助 ——— 21人
- 2位 地域イベント・活動の企画・運営 ——— 19人
- 3位 地域防災活動 ——— 10人
- 4位 スマートフォンやPCの活用などのデジタル化の推進に関する手伝い ——— 9人
- 5位 空き家／空き地の活用 ——— 7人